

**・明治・大正・昭和の激動の時代を、  
愛と平和と女性のために走りぬいてきた碧川かた  
波乱万丈の 90 年の生涯をぜひ朝ドラに！**

碧川かたを朝ドラの主人公にする会  
発起人代表 瀧口 節子

たつの市に朝晩流れる「赤とんぼのメロディー」その作詞者 三木露風の母「碧川かた」は明治 5 年鳥取に生まれました。  
「婦人参政権獲得」はじめ、「禁酒運動」、「公娼制度の廃止」、「狂犬病予防法」などまた貧しい人々や病める人などの支えになりながら、女性の地位向上の運動の先駆者となり数多くの功績をあげました。

かたの生涯は明治、大正、昭和と 90 年にわたり、戦争や離婚など数々の逆境の狭間にある時も明治女の凛とした面も持ち合わせ、涙あり、笑いあり、明るく前向きに未来を切り開いて生きてきた人です。

また仲良し家族や、素晴らしい数多くの人々との幸運な出会いが織り込まれた人間模様も興味を引きます

かたは「人の生き方は地位や名誉や財産ではない、人は人の為にどれだけ生きられたか？」と投げかけています。かたの物語を放映することにより、今日 現代人に求められている、女性の自立や子育て、老後の生き方、また人への思いやりや優しさ等を喚起し、朝ドラファンに勇気や慰めを与え、毎朝元気づけられ一日を過ごせると信じてやみません。

## 碧川かたの生涯

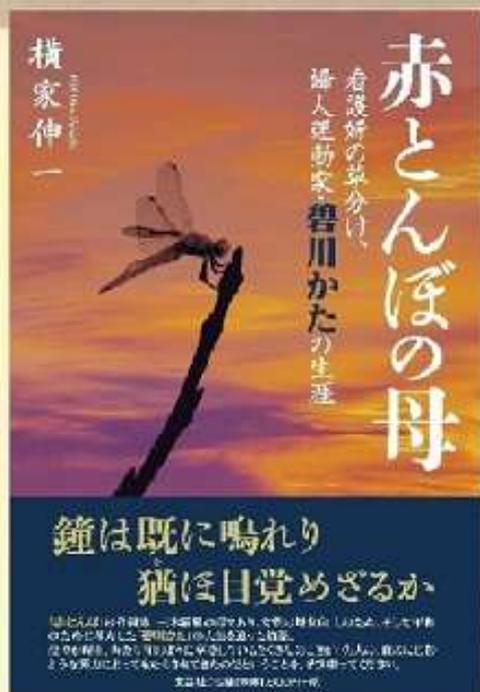
<p style="text-align: center;"><b>龍野時代</b></p> <p>明治5 鳥取 0歳 鳥取藩家老和田邦之助の次女として誕生</p> <p>明治21 龍野 15歳 かたは元龍野藩家老、三木家の次男節次郎と結婚</p> <p>明治22年 龍野 16歳 露風、勉 誕生</p>	<p><b>明治維新の動乱期に誕生</b> 父邦之助は幕末の動乱に巻き込まれ、因幡二十士事件の張本人として池田藩藩主から嫌疑をかけられ切腹を命ぜられる、一命はとりとめたが、精神に異常をきたし隠居の身となる そんな時に生まれたかたは池田藩家臣の堀家に養女に出される</p> <p><b>子守唄は万葉集</b> かたは露風に万葉集を自作し唄って聞かせた、のちに露風は自分の詩の原点は故郷の山川、と母が唄ってくれた万葉集の子守唄であったと述べている)</p> <p><b>夫は放蕩三味</b> (かたは 16 歳で結婚し、2 人の子供に恵まれたが夫節次郎は勤務先でも不祥事を起こし、姫路、神戸、大阪まで足を伸ばして遊んでいた生活費も底をついた。) かたは周囲の勧めもあり離婚を決意した</p>	<p>かたの生き方から学べること</p> <p>家老職の家に生まれ、人を治める能力が備わっていたかも</p> <p>親子の断絶はこどもの心に一生の傷を残す</p>
<p>明治28 龍野 23 歳 三木節次郎と離婚</p>	<p><b>長男露風を残し、次男勉をつれて鳥取に帰る</b> (女性が物を言えない封建社会にかたはこの時初めて不条理を感じたに違いなく、まずは自立し、「悲しい人、苦しい人、そして病める人々のお友達になりたいと強く思い、東京大学看護専門学校に入学した) その頃の女性の職業は電話交換手か看護婦しかなかった</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>離婚は自立のチャンス</b></p> <p>自立を考えたのは、たぶん鳥取に帰ってからだろう そのころ、東京の久松学舎で舎監をしていた、養父の堀正を頼って東京に行った、歩いて行ける距離に東大看護専門学校があり、乳呑み児を預けながら通った</p> </div>	<p>世の中の不条理を体験し、人の生き方を模索し生き抜く力を見出す</p>
<p style="text-align: center;"><b>東京へ</b></p> <p>明治28 鳥取 23 歳 乳呑み児を抱え東大看護養成学校に入学</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 上京にあたり碧川企救男に同行を頼む(この時企救男は 17 歳の学生、早稲田の政治英語学科に入学する為上京、のちの再婚相手)</li> <li>◇ ベルツ教授の娘ミスカーを通じ、ナイチンゲールから写真を頂く</li> </ul>	<p>離婚から立ち上がり、自立をする事の大切さを自覚した</p>
<p style="text-align: center;"><b>再婚</b></p> <p>明治35 北海道 30歳 碧川企救男と再婚 5 人の子供に恵まれる</p>	<p><b>三浦教授からドイツ留学を奨められるが企救男の求婚に応じる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 長男道夫はカンヌ映画祭でグランプリを撮った「地獄門」や「東京オリンピック」などの撮影技師</li> <li>◇ 長女澄は碧川家へ養女、夫宗伝はNHK文化研究所、澄はNHKラジオ番組「療養のママ」を担当</li> <li>◇ 次女、国枝、</li> <li>◇ 三女、芳子、内田吐夢氏の妻</li> <li>◇ 四女清、島田療育園婦長</li> </ul>	<p>幸せは自分の手で掴みとることを実践</p>
<p>明治41 東京 35 歳 露風11年ぶりに母かたと再会</p>	<p>父企救男は露風も勉が訪ねて来た時も「同じ兄弟なのだからみんな仲良くするように」と申しておりました。兄弟が喧嘩口論することもありましたが、妻の前の夫の子に示す父の態度には、妻への愛情の深さを感じました」道夫言</p>	<p>理想的な夫婦愛</p>

<p>大正元年 東京 40歳 出張看護婦として働く</p>	<p>訪問看護先に、岩崎邸、古河邸、細川邸、富貴桜など</p>	<p>夫婦共働き</p>
<p><b>参政権運動へ</b> 大正8 ヨーロッパ 47歳 企救男はベルサイユ講 和条約のため欧州へ</p>	<p><b>かたは女権運動を決意</b> 夫企救男は第一次世界大戦講話会議の為欧州に5ヶ月滞在し、その後街を見聞しイギリスの繁栄を目の当たりにした。婦人参政権活動の情報をかたに伝えた、かたは女権を決意し学習した</p>	<p>男女共同参画、夫の協力と支えあり</p>
<p>大正9 北海道 49歳 童謡「赤とんぼ」誕生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 北海道トラピスト修道院で赤とんぼ作る窓辺に止まっている赤とんぼを見て故郷龍野と懐かしい母を思い出して作った</li> <li>◇ 作曲は友人の山田耕筰が江ノ電の電車の中で15分で作った</li> <li>◇ かたは生田長江に詩人として認められるよう露風のことを頼んだことにより露風「芸苑」に掲載され一躍詩壇に浮上するその後、北原白秋と共に白露時代を築いた</li> </ul>	<p>赤とんぼの歌の中に秘められた母への思慕 かたと露風にみる永遠の親子愛</p>
<p>大正12 東京 51歳 関東大震災</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 自宅が被災疎開先で屋根にカボチャを這わす</li> </ul>	<p>明るく前向き</p>
<p>大正12 東京 51歳 かた婦人参政同盟に加わる 昭和2 東京 55歳 女権社を設立、雑誌「女権」を発行</p>	<p>「女権」の本の出版により女性差別を訴え「婦人参政権」を啓蒙した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1、「鐘は既に鳴れり」碧川かたと題して投稿する（婦人参政権の鐘は既に鳴っていますよ、皆さん立ち上がってくださいの意味）</li> <li>2、「女権の確立」鷺尾よし子</li> <li>3、「東京瓦斯問題」高橋千代</li> <li>4、「発刊を祝す」三木露風</li> <li>5、「小説昭和50年」碧川企救男</li> </ul> <p style="text-align: right;">応援寄稿</p>	<p>50歳からはじめた「婦人参政権運動」老後の生き方を学ぼう</p>
<p>昭和9 京都 62歳 企救男亡くなる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 「白黒に色はかわれど、天地をかたちづくれる石ぞあるらん」カタ 二人して「かたちづくれる」社会を探した。夫婦であり同志であった。</li> </ul>	<p>お互いに尊敬しあう理想的な夫婦のあり方</p>
<p>昭和20 日本 73歳 婦人参政権が認められる</p>	<p>昭和20年国会で婦人参政権が認められた。半生かけた宿願達成に落涙、その他禁酒運動、公娼制度の廃止、つ姦通罪、狂犬予防法、などの功労者</p>	<p>今、18歳から選挙権、若者も女性も政治に関心を持つ</p>
<p><b>かたの最後</b> 昭和29 東 82歳 最後の外出</p>	<p>道夫と眼鏡屋の帰り、「お母さん、どこか行きたい所はありませんかと聞かれたカタは、「国会議事堂へ行きたい」と答えた。守衛がいて入れなかったが、「婦人参政権のために、闘ってきた母であり、これが生涯最後の外出となるかも知れない。母はこの議事堂を最後に見たいと願って来ました」と話すと守衛は心を動かし、正門を大きく開いてくれた。カタは突然大きく手を広げ、声を出してワァーと泣いた</p>	<p>碧川家の暖かい家族愛</p>
<p>昭和37 東京 90歳 かた永眠</p>	<p>露風は通夜の晩、道夫に頼んで、「今晚一晩、添い寝をさせてもらいたいと申し出た露風は幼い頃、母との添い寝の思い出がなく、母が亡くなって初めて夢が実現した、露風にとっては最高に幸せなひとときであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 「吾七つ母の添い寝の夢や夢十とせは情け知らずに過ぎぬ」露風、</li> <li>◇ 弔問客に市川房枝や高橋千代もかけつけた</li> </ul>	<p>永遠の親子愛露風の母への想いは一生続いた</p>

# 赤とんぼの母

看護婦の草分け、婦人運動家・碧川かたの生涯

横家伸一



三木露風の母であり、  
女性の地位向上のため、  
平和のために尽力した、  
碧川かたの人生。

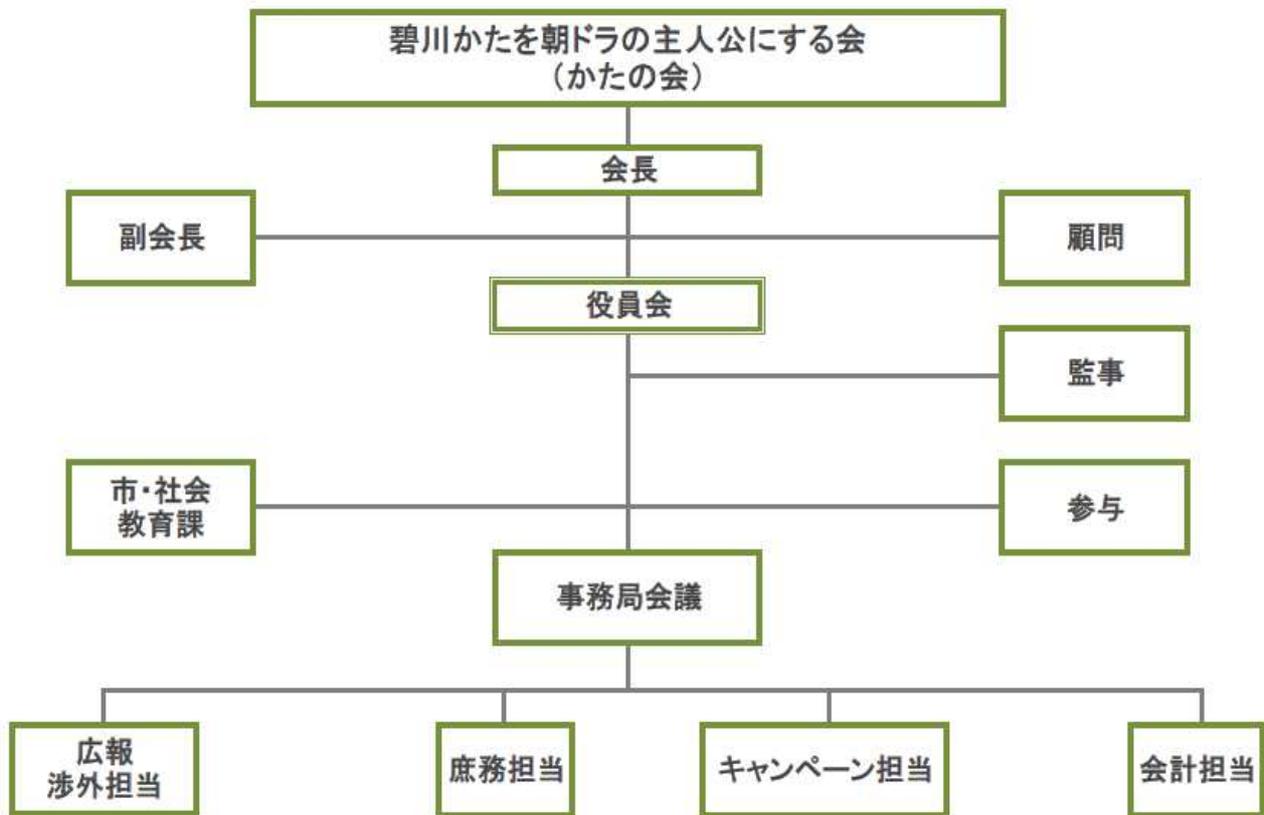
「赤とんぼ」の作詞家・三木露風の母であり、女性の地位向上のため、そして平和のために尽力した「碧川かた」の人生を通った小説。市川房枝をはじめ、日本の歴史に名を刻んだ数多くの人と交流し、影響を与え合った人生。我々が現在、当たり前のように享受しているたくさんの方が、先人の、血のにじむような努力によってもたらされてきたのだということを、ぜひ知ってください。

四六判・並製・400頁 定価1,760円(税込)

文芸社 東京都新宿区新宿1-10-1  
TEL.03-5369-2299 FAX.03-5369-3066

※ご好評につき出版社在庫がなくなり、全国書店の注文分は完売のためアマゾンまたは下記までご連絡ください(郵送可能)

ガレリア アーツ&ティー(たつの市)  
TEL: 0791-63-3555



- ◆ 「碧川かたを朝ドラの主人公にする会」 会長 徳永耕造
- ◆ 会員数1000名
- ◆ 設立年月日 平成29年4月22日